

社会科学学習指導案

場 所 2年B組教室

学 級 2年B組(男子 11名, 女子 15名, 計 26名)

指導者 教諭 渡辺 剛

1 単元名 第一次世界大戦

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、中学校学習指導要領における〔歴史的分野〕の内容(5)「近現代の日本と世界」のオの「第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましを理解させるとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、この時期のわが国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせる。」ことをねらいとしている。

この単元は世界では、第一次世界大戦が起こり、その終結後は国際協調へ向かい始めた。国内では大正デモクラシーが起こり民主主義の風潮が高まり、普通選挙が実現した。日本および世界の歴史そのものが大きく変わった時期である。小学校では、社会運動の発達について少し触れている程度であり、第一次世界大戦については学習していない。

そこで、資料を多面的・多角的に考察し、第一次世界大戦の原因、経過、日本の関わり、結果や国内では、社会運動が高まり普通選挙が実現した経過や背景を捉えさせたい。また、国際協調の道を進むなか再び大戦へと進んでいくのかを考えさせたい。

(2) 生徒について

2年生の学習定着度状況調査では、社会科の学習が大切だと思う生徒や内容を理解していると答えている生徒の割合は高いが、正答率は41%と低く既習事項の学力は十分に定着していない。

自分で考えたりすることを苦手としており受動的な態度の生徒が多い。どちらかという、地理的分野よりも歴史的分野の方が興味・関心が高い。思考・判断を問う発問には、自分の考えを積極的に発言する生徒は少なく、固定化されている。それは、自分の考えに自信を持てなかったり、自分の考えをまとめることができなかつたりするためである。

(3) 指導について

第一次世界大戦に関わって、各国の動きを理解させながら、国際社会における日本の立場を考えさせたい。また、日本国内では民主主義の風潮が高まり普通選挙法が実現するまでの歴史的流れを民衆の立場から考えさせたい。

意欲的に考えられるよう、資料から生じた疑問に対して、学習課題を設定し、学習シートに自分の考えを書かせ、小グループで交流させることで社会的事象を多面的多角的に捉えさせたい。また、資料の読み取りを苦手としている生徒もいるので、グラフや写真資料の提示を工夫したい。グループ内で発表させながら自分の考えを深めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の動き、この時期の国民の政治的自覚の高まりを意欲的に調べることができる。
- (2) 第一次世界大戦の背景や影響、戦後の国際協調の動き、政党政治の発達、社会運動の展開などを通して、政治、社会の動きとその特色を多面的・多角的に考察できる。
- (3) 第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の動き、この時期の国民の政治的自覚の高まりを追究し、考察した過程や結果をまとめることができる。
- (4) 第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の動きを理解するとともに、この時期の国民の政治的自覚の高まりに気づくことができる。

4 単元(題材)の指導計画

- (1) 第一次世界大戦とロシア革命・・・・・・・・・・2時間
- (2) 第一次世界大戦と日本・・・・・・・・・・2時間(本時1/2)

- (3) 国際連盟と民主主義の広がり・・・1時間
- (4) アジアの独立運動・・・1時間
- (5) 政党政治と社会運動の高まり・・・1時間
- (6) 都市生活の広がりとラジオ放送・・・1時間

5 本時について

(1) 目標

米騒動が起こった背景と影響を考えることができる。

(2) 本時の構想

前時までには、第一次世界大戦がどのような背景で起こり、日本が日英同盟を理由に参戦し、中国に対する権益を強め、大戦景気を迎えたことを学習している。米騒動の起こった背景や影響を考えさせ資本家や地主と労働者や小作人との経済格差が広がったことを理解させたい。

研究に関わって、本時では、以下の点に留意し授業展開を考えた。

① 意欲を高めるための課題設定

日本が好景気となり工業製品の生産量や輸出量が増加しているにもかかわらず、庶民の暮らしは苦しいという矛盾点に気付かせ、課題に対する意欲を高め自分の考えを持たせたい。

② 社会的事象に関心を高める指導

導入と検証で米騒動の様子の映像を通して理解させることで米騒動についての関心を高めたい。また、米騒動の結果、寺内内閣が退陣して盛岡の先人である原敬内閣が誕生したことに触れ関心を高めたい。

③ 自分の考えを説明し合う場の設定

学習課題に取り組む場面での小グループでの学び合いでは、自分の考えに根拠を持って説明できるように語形を提示する。自分の考えと他の人の意見を比較しながら相違点や共通点を意識して交流することにより、自分の考えを深めさせたい。

(3) 具体の評価規準

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)への支援
社会的事象への関心・意欲・態度	大戦景気と関連付けて米騒動が起こった背景と影響に関心を持つ。	米騒動が起こった背景と影響に関心を持つ。	好景気なのに庶民の暮らしが苦しかったことに興味を持たせる。
社会的な思考・判断	米騒動が広まった背景を資本主義経済の問題点から考えられる	米騒動が広まった背景を考えることができる。	なぜ、米価が上がったのかを考えさせる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の指導・支援	◇留意点 ◆評価
導入 7分	1 既習事項の確認	1 日本が好景気になったことを確認する。	1 既習事項（日英同盟・21か条の要求、成金）を想起させる。	◇成金と庶民の暮らしの違いから関心を高める。
	2 課題設定	2 学習課題を把握する。	2 好景気のなか、富山県で米騒動が起こり瞬く間に全国に広がったことに気付かせる。	
日本は好景気であったのになぜ、米騒動が起こったのか。				
展開 37分	3 課題についての予想 (個人で)	3 課題について予想をたてる。 予想される生徒の反応 ・ 好景気になったので物が良く売れ物価が上がったから。 ・ 儲かったのは一部の人が多かったから。 ・ 米商人が米を買い占めたから。	3 米騒動が起こった原因を既習事項（一揆、打ちこわし、開国の影響）や経験（価格の変動）を基に考えさせる。	◆自分の考えをグループ内で発表し、考えを深めることができたか。
	4 課題追求 (1)米価の上昇の原因 (2)米騒動の経過と影響	4 米騒動について調べる。 (1)「米価の推移」から米価が上昇していることに気付くシベリア出兵と関連付けて原因を考える。 (2)VTRを見て、米騒動の経過を理解し、その影響を考える。	4 (1) 価格が上昇するのは需要が増える場合や供給量が減少する場合があることに気付かせる。 (2) 視点を与えてVTRを見せて、米騒動の起こった背景から資本家や地主と労働者や小作人との間に経済的格差が起り、社会運動が高まったことに気付かせる。	
終末 6分	5 学習課題のまとめ	5 学習課題に対するまとめを自分の言葉で学習シートに記入する。	5 米価の上昇の原因と米騒動の影響を記述させる。かけない生徒にはキーワードとなる言葉を指摘してあげる。	◆産業が発展していくなかで、米騒動がおこった理由を資本主義社会の問題点と関連付けて書ける。
	6 ふりかえり	6 授業のふりかえりカードに自己評価を記入する。	6 ふりかえりカードに自己評価を記入させる。	
	7 次時の予告		7 第一次世界大戦後のヨーロッパの動きを学習することを伝える。	◇大正デモクラシーの授業に関心を持たせる。

